



誰ひとり取り残さない 代々受け継いだ農業を守り 次代へつなげる

「こんにちは。お疲れさまです」やわらかな笑顔で挨拶をしてくれるのは、仕事を終えた西地食品の女性たちだ。「うちは、女性も働きやすい職場です。運動会など学校行事の時は遠慮なく休んでもらい、子どもとの時間を大切にしてもらっています」と話す西地食品社長 吉永真由美さん。そんな思いが通じてか、離職率は低く長く勤める従業員が多いそうだ。

農園では、果汁を搾った後の果皮を粕殻と混ぜて、発酵させたものを堆肥にし、土に戻して使っている。そこから生まれた果実の皮が、また堆肥となって果実が生まれる資源循環型の農業だ。西地食品では、高齢化が進み、すだちやゆずなどが実をつけても収穫できない農家へ出向き、収穫を代行する。また、耕作放棄地を譲り受けてしょうがの栽培を行い、新野町の地域活性化のためにたけのこ山を再生して水煮缶の製造も行う。農業の担い手である農業高校では、講師として自分の思いや技を伝えている。

これらの取り組みには、先代社長の「決して、農家の皆さんが作ったものを無駄にしない」という思いが投影されているように見える。その思いは、吉永さんらの手によって、次代へと継がれていく。

Profile

西地食品株式会社

緑の山々に囲まれた美しい新野町ですだち・ゆず・ゆこうなどの果樹農園を経営し、そこで育てた柑橘の加工食品の生産・販売を行う。新製品や商品の美味しい食べ方などもSNSで発信。目指すは世界。2023年1月には、フランス・リヨンでの展示会に出展。爽やかな日本の柑橘の香りを世界に発信中。

